

編集人：ぶくぶくの会 〒564-0025 吹田市南高浜町1-17-2A (総務)
TEL 06-6317-5598、FAX 06-6317-0936 Mail: so-mu@puku-2.com URL: www.puku-2.com
代表：馬垣安芳 編集長：上田かおり 1部200円
年間購読料：個人会員2000円 広報会員(3部)5000円
法人会員1口(5部)10000円 賛助会員(1部)10000円
振替口座00940-0-161341
「まねき猫通信」



もくじ

とくしゅう 特集：バリアフリーで変わる吹田-2
か すいた
しんしゃ の で
りーえっせい：新車に乗って出かけよう-鈴木勉- 4
あさひしんぶん けんしょうきじ いしづかなおと
朝日新聞の検証記事-石塚直人- 5
じへいしょう ひと しえん
自閉症スペクトラムの人への支援-6

題字：
塩澤 文男
(しおざわ・ふみお)



ひらり

絵：まこ なまこ

トリの眼・ムシの目・ニャンコの目

国連での『障害者の権利条約』採択
(2006年、発効は2年後)を目指して、世界中の障がい者が立ち上がり行動を起こした。その時の合い言葉は、
『Nothing About Us Without Us』。私たち抜きに何も決めるな。この言葉は、障がい者のみならず全ての社会的弱者とマイノリティ(被差別少数者)の心情を代弁している。さらに、どのような場面でもこの『当事者民主主義』が最優先されるべきなのだ。福島、沖繩の人々を「抜きに」原発再稼働と新基地建設が進められようとしている今こそ、このスローガンを大声で叫びたい。▲この条約に署名した高村正彦(外務大臣・当時、現・自民党副総裁)は、かつて「集団的自衛権については国民的議論のもとで憲法改正をしていくのが本筋」が持論だったが、昨今は「抑止力は人類の宝」などと主張して、平然と変節ぶりを露わにしている。抑止力の頂点は核武装であり、それで恫喝をかけて相手を屈服させるのが最良の方法なら「外交」など端から必要ない。「世の中、強いものが勝つ」のが現実であれ、それが原則にまで祭りあげられるなら「政治」は一切不要だ。▲この国で「我が世の春」を謳歌している無数の 高村 に、再度言うー
Nothing About Us Without Us! (ハキ)

ばんぱくきねんこうえんしゅうへん
万博記念公園周辺

きよだいさいかいはつ
巨大再開発

おおさかしん
ガンバ大阪新スタジアム
ショッピングゾーン

バリアフリーで変わる吹田を考えよう！

吹田のバリアフリー・交通アクセスをめざす会

商業・娯楽施設の完成イメージ



ガンバ大阪 新スタジアム



編集部・三井不動産との協議が、不調になっていると聞きま

災害に備え
スロープの設置を

赤尾…この巨大再開発事業をバリアフリーという観点で見

した。経過と理由を聞かせてく

「エキスポランド跡地再開発事業」が、7月に着工しました。エンターテインメントとショッピングを融合させた大型複合施設を建設するもので、(株)海遊館が手がける新しいタイプの水族館のほか、日本最大級の観覧車も計画されており、事業者である三井不動産は、「大阪の新たなランドマークを目指す」としています。開発予定地南側では、ガンバ大阪の新スタジアム建設が進んでおり(来年秋完成予定)、万博記念公園周辺は、巨大な娯楽・商業地域として多くの人が集まる場となるとしています。

トするとともに、吹田市議会で採択された請願の内容に「誰もが安心・安全に観戦・使用できるように、障がい当事者をまじえて、①継続的に協議の場を設けること。②設計段階や建設段階で当事者が参画できる場を作ること。③完成後のスパイラルアップを求めた」を紹介しながら、バリアフリーのモデル事業として、当事者参加の重要性を訴えました。

さらに厄介なのは、開発エリアのうち商業施設は三井不動産が直接、建設・運営しますが、水族館は(株)海遊館、観覧車や映画館は別の事業者(未定)というふう

開発者の責任
行政の責任

ゲートからショッピング街に行くために2つの道路が計画されているのですが、両方とも階段

「吹田バリアポツ」は、その後も障がい当事者として事業者側と協議を続けるとともに、2回のシンポジウムなどを開いて運動を進めてきました。その後の経過や、見えてきた問題などを、吹田バリアポツ代表・赤尾広明さんと副代表の福西義信さんに聞きました。(文責・編集部)

例えば、日本最大規模となる観覧車について、車いすも利用席が用意されるようになりま

変更は不可能」との回答でした。

その代わり「職員の災害訓練を重ねて優先的に安全を確保する」としていますが、混乱した非常時に車いすが優先して避難できる保証はありません。また、軽い車いすなら抱えて階段を降りられるでしょうが、私のように重いストレッチャーは無理です。急傾斜でも、幅が狭くてもいいので、自力で避難できるよ

たが、劇場の端っこに限られませんが、映画館の通路は狭いので、スロープのみの劇場でも、中央に行けることは稀です。また、出入口の位置によっては、最前列か最後尾になります。後ろはまだしも、最前列で端っこになると、いささか悲惨な観賞となりま

思いました。

シンポジウム「バリアフリーで変わる吹田」 サッカー好き車いす1000人委員会

7月18日、吹田バリポツは、ユニバーサルデザインの街作りに向けて、シンポジウムを開催しました。内容は、①関西福祉科学大学の三星昭宏教授に「バリアフリー基本構想の到達点と課題」というテーマで基調講演をして頂き、②バリポツの活動を報告、③今後の取り組みについて議論しました。

三星さんから、新スタジアムのユニバーサルデザイン化について、おもしろい提案を頂きました。サッカー好きの市民に働きかけて、協同するというものです。①サッカー好きの車いす利用者が全国から集まって「1000人委員会」を作り、提言をする、②吹田にある少年チームやアマチュアのサッカー協会に声をかけて協同する、③吹田青年会議所が地域活性化のためにスタジアム建設募金団体と協議を続けているようなので、連携を模索するなどです。

サッカー好きの同好の士として、「どんなスタジアムであって欲しいのか？」を語りかければ、きっと理解を得られるでしょうし、事業者も耳を傾けやすいと思います。

使いづらい施設が完成してしま
いそうです。三井不動産には、
開発主体としての責任がありま
すし、吹田市も「住民の防災・
安全」という観点から、事業者
に指導して欲しいと思います。

ガンバ大阪 新スタジアム

利用されます。
私たちは、建設募金団体と
協議を重ねた結果、車いすス
ペースがメインゲートのある3
階最前列に限定されていた点
は改善され、5階と2階後方
にも車いす席が設けられまし
た。しかし1階席については、
「構造上困難」としています。
3階から1階への移動が、30度
という急傾斜で、「スロープを
付けても無理」という理由です。
しかし、1階には救急車が出
入りしたり、物資を運び込むた
めの通路があるはずで、それ
を利用して1階の観戦席に誘導
するルートを確認することが、
構造上無理とは思えません。

▶赤尾さん(右)と福西さん(左)



私たちは特別扱いを求めてい
るわけではありません。他の
サッカーファンと同じように、
観戦場所を選択できるよう要望
しているだけです。「1階は、
ボールが飛んできて危険」とい
う声も聞きますが、ファンとし
ては臨場感を味わえるので本望
ですし、怪我をしたとしても

自己責任だと思っています。
他にも、災害時の避難通路の
確保、エレベーターに人が殺到
した場合の対策などの問題は
残っています。ただし工事が進
んでおり、ハード面での改良の
余地は、少ないと思っています
す。今後は、案内板などソフト
面での改善を求めていきます。
4万人の観衆が気持ちよく観戦
し、混乱なく移動し、安全・
迅速に避難できるのか？課題
は山積しています。

「普通に 生きたい」

福西：協議方法自体の問題もあ
ります。できあがっている設計
仕様を改良するのは、限界があ
ります。デザイン段階から意見
交換をしたいと願っています。
障がい者が何に困っているの
か？ユニバーサルデザインと
は何なのか？協議を通じて考
えて欲しいからです。
三井不動産との協議には、
設計担当者も出席していました。
ガンバ大阪もそうした対応が欲
しいところです。というのも
協議内容が実際の工事に反映さ
れているとは思えないからです。

赤尾：車いす席は合計300席
で、内50席が値段の高い良席です。
せめて良席だけでも、臨場感を
味わえる配慮を求めます。
福西：ガンバ大阪スタジアムに
してもエキスポランド再開発に
しても、協議になっていないと
いう問題点があります。要望を
伝えても、返ってくるのは進捗
状況の報告だけで、なぜできな
いのか？どうすればできるの
か？を話し合う場になっていな
いのです。本当の意味で参画は
できていないと感じています。
誰でも参加でき、想定できる
様々な問題を出し合い、解決策
を見つけるような公開の説明会
も必要です。こうした説明会に
吹田市役所が、率先して開催
して欲しいと思います。

編集部：公共施設や交通機関の
ように生活上不可欠な施設と
違い、娯楽施設となると、別の
説得が必要になるとは思います。
赤尾：ユニバーサルデザインを
語る場合、障がい者権利条約や
バリアフリー法を持ち出して、
法律論で説得する場合があります
と思いますが、もっと実際の生活
レベルの問題なのです。
誰でも普通にいく居酒屋や

娯楽の場に、行きたくても行け
ない人がいることを想像して欲
しいのです。普通の人ややって
ることを、自分もやりたい
そんなシンプルな欲求なので
す。それを入口でシャットアウ
トされると、「なぜ？」と問い
たくなります。
その際によく出てくるのが
「経済性＝コスト」の問題です。
コストやビジネスという観点に
しても、弱者に優しい配慮やホ
スピタリティを提供することで
来場客が増え、利益にもつな
がっていくという発想に切り替
えて欲しいと思います。

当事者の側にも「諦め」があ
ります。平日昼間に映画館に
行って貸し切り状態なのに、席
は最前列の端っこ。これでも障
がい者だから「しょうがないや
ん」と黙っています。これでは
現状は変わりません。
法律論の前に、「普通の人と
して生きたい」との思いを尊重
し、検討を重ねて一緒に解決策
を見いだそうとする姿勢こそ、
バリアフリーの精神だと思いま
す。両施設とも来年の秋に開業
予定です。特に防災・安全面は、
犠牲者が出てからでは遅いの
で、綿密な検討を期待します。